



# 蒼穹

あおぞら

八戸市立長者中学校  
学校だより 第6号  
文責:石毛 清八  
平成29年6月7日  
TEL(0178)43-4871

## 上り坂

校長 石毛 清八

みなさん、おはようございます。さて、いきなりですが、「学校」は何をすることでしょか。そんなの当たり前、と誰でも「勉強するところ」と答えられると思います。では、どうして勉強しなければならないのでしょうか。この答えは少し難しいかもしれませんが、中学校は、あたま、こころ、からだを鍛え、社会に出るための基礎を培うというところから、大人になるための学校と言われますが、今、質問した「勉強の意味」を考えることも大人になるためには必要なことかもしれません。

なぜ、勉強しなければならないのか。私はその理由を、「自分」という存在を自分自身で伸ばすため、ということではないかと考えています。そして、勉強することは、楽しければいいのですが、いつもいつも楽しいとは限りません。いや、むしろ苦しいことの方が多いいのではないのでしょうか。眠いなあ、つまらないなあ、大変だなあと思って、嫌だなあと逃げてしまったり、後にしようと思っばしにしたりしてしまうこともあるかもしれません。そうなりそうなとき、こう考えることはできませんか。苦しいときこそ、実は、自分が伸びているときだ、そう、少しでも思えるようになって、もうひとがんばりできれば、大いにあなた自身が伸びていくと思います。夢に向かう途中には必ず困難がつかまいます。しかし、いかなる困難があってもくじけないでください。困難を乗り越えるときに、人は大きく成長するのです。

ここで一つ、詩を紹介しします。安積得也(あづみとくや)さんという詩人の「上り坂」という作品です。

上り坂は苦しい。けれど、それは自分が伸びている瞬間なのだということです。楽なときは下り坂。伸びていないとき。学習だけでなく、部活や人との関係に悩むときも、この考え方は大切です。辛いからやめてしまう、だけでなく、ときには、辛いけど頑張ってみる、ということが、これからたくさんあるといいと私は思います。

頑張る人がたくさんいる、そんな学校になるよう、自分がまず行動してみたらどうでしょうか。以上で全校朝会のお話とします。  
(H29.6.6 全校朝会)



上り坂に いるか	下り坂に いるか	お前は 今	上り坂だ	後で折れ ればと 感じる ときは	骨が折 れると 感じた ときは	何か調 子が重 く感じ たとき は	下り坂だ	後で折 れれば と感 じた ときは	軽く らく らく と感 じた ときは	朝も やの 高原 を自 転車 でゆ く	上り 坂	安積 得也
-------------	-------------	----------	------	---------------------------	--------------------------	-------------------------------	------	-------------------------------	-----------------------------------	---------------------------------------	---------	----------

## 母校で教育実習

5月29日より3週間、本校卒業生の鳴海実夏さんが英語の教育実習生として来校している。在学中は剣道部に所属し、県大会出場を果たしたファイトマン。先輩として皆さんにアドバイスをしてくれた。



中学校時代を振り返り、私の経験から皆さんに三つのアドバイスを送ります。

1 自分の強みを一つでも持つこと。

私は勉強が苦手だったので、部活の剣道を強みにしていました。その結果、大会で入賞したり、剣道の特待生として高校に入学できたりしました。誰にでも強みになるものがあります。「これは誰にでも負けない！」という強みを持ってみてください。

2 行事に全力で取り組むこと。

中学校以上に、クラスメイトや全員で作上げる行事はこの先ないと思います。すべての行事を大切に、全力で取り組んでください。

3 中学時代の友達を大切に。

中学時代は友達とよく喧嘩をしました。ですが、楽しく中学校生活を送れたのは、友達がいたからです。今でも相談や遊んだりするのは中学校でできた友達です。一生付き合える中学校の友達を大切にしてください。悔いのない中学校生活を送ってください。

# 長者中学校は全ての教科で全国平均を上回りました

～平成29年度 NRT標準学力検査(全学年対象 4月12日・13日実施)～



標準学力検査(NRT)って  
どんな検査なの？

## 特長

県や国の学習状況調査とは異なり、子ども1人1人が全国基準と比較して、教科ごとにどの程度理解できているか、客観的に把握できます。1人1人の多様な分析データも得られます。

## 子ども

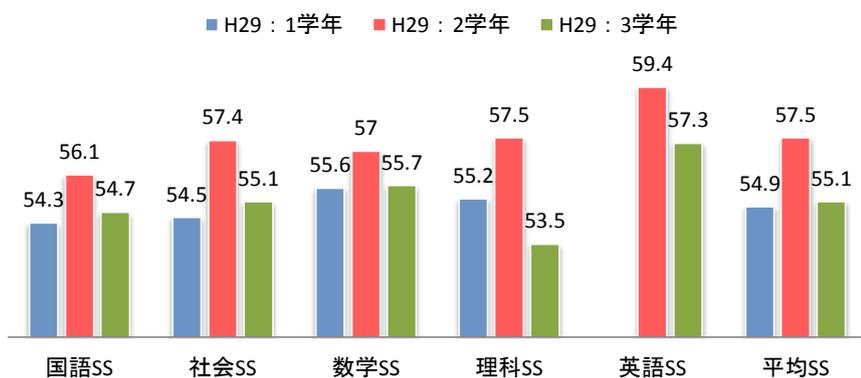
基本から応用まで網羅した設問構成になっているので、子どもたち自身が、どこが分かり、どこが分からないのかを、詳しく知ることができます。

## 学校

結果をもとに指導方法が適切であったかなどを検証し、授業改善に役立てています。理解が不十分な子どもへの個別支援や補充学習などにも活用しています。



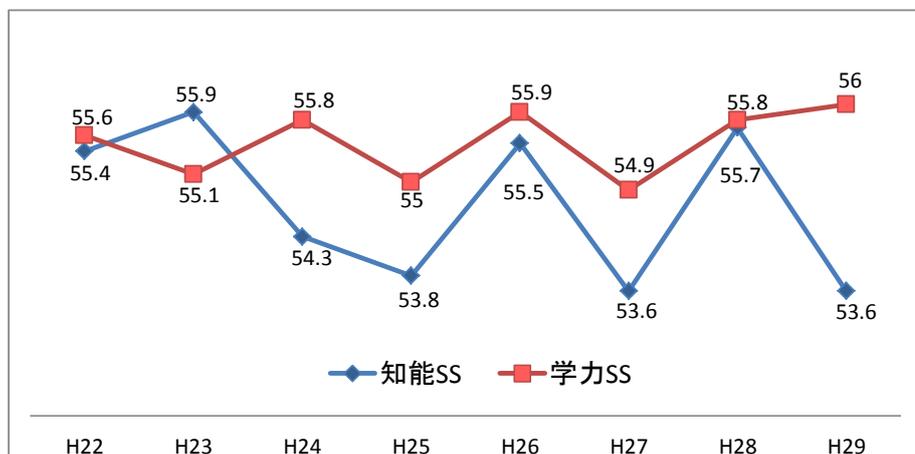
## 学年別 教科ごとの偏差値 SS



【考察】長者中学校では、すべての教科で全国の平均を上回っており、先生方の指導の下、子どもたちのがんばりの様子が見てとれます。教科別では、英語の数値が群を抜いて高いことがわかります。学年別では2学年のがんばりが顕著です。

## 子どもたちのがんばりにより学力は向上しています

～知能偏差値と学力偏差値の相関グラフ～



【考察】平成29年度は、知能偏差値 53.6 に比べ、学力偏差値 56.0 と大きく上回っており、知能水準から期待される力よりはるかに高い学業成績を示しています。長者中学校は、子どもたちが安心して過ごせる環境の中で意欲的に学習できるように、これからも「学びを支える授業づくり」「学びを支える集団づくり」の推進に努めていきます。

## 標準学力検査の目的

本校生徒の学力や学習状況を把握し、生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てます。

なお、本検査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

## 数値の見方

偏差値 50 を全国平均とし、比較した結果について示します。

- 大きく上回る：55 以上
- 上回る：51 以上 55 未満
- 同程度：49 以上 51 未満
- 下回る：45 以上 49 未満
- 大きく下回る：45 未満

## 今後、取り組むこと

### 日々の授業改善への一層の取組

- 自校の結果分析等を基に、今後の学力向上対策について焦点化し、全校体制で継続した取組を進めます。
- 生徒一人一人の実態を把握し、どの子どもにとっても「分かる」、「楽しい」が実感できる授業のユニバーサルデザイン化に全校体制で取り組みます。
- 管理職はこまめに授業参観を行い、適切な指導に努めます。
- 個別の診断結果を基にして生徒の理解を一層深め、個別指導の充実を図ります。

### 家庭学習の取組への支援

- 家庭学習の質と量の確保のため、実態に応じた宿題を出すとともに、宿題以外にも主体的に学習に取り組むことができるように、具体的な指導を行います。
- 家庭学習への取組に対する評価を確実にし、生徒のやる気を育てます。

### その他

- 携帯電話やスマートフォン、テレビやゲームなどの利用時間も含め、家庭における時間の有効な活用について、保護者と連携しながら指導します。